霊峰 仰ぎ見る魅力

山梨、静岡県立美術館長対談

新型コロナウイルスの影響で、今年は富士山に登ることができず、「仰ぎ見る夏」となっている。芸術の源泉、信仰の対象、として、世界文化遺産に登録された富士山、古来、人は富士山をどう捉え、芸術に描いてきたのか。登山できない時だからこそ、仰ぎ見る山としての価値を、山梨県立美術館の青柳正規館長と静岡県立美術館の木下直之館長が語り合った。

〈司会＝山梨日日新聞社文化・くらし報道部・清水健、静岡新聞社文化生活部・横尾充〉

静岡県立美術館 木下　直之館長

きのした・なおゆき　1954年、静岡県浜松市生まれ。兵庫県立近代美術館学芸員、東京大大学院教授（文化資源学）を歴任。見世物、銅像、記念碑など、消えゆくものなどを通して、日本の近代について考えてきた。2015年春に紫綬褒章。2017年から静岡県立美術館長。

青柳「物語」の蓄積で象徴に

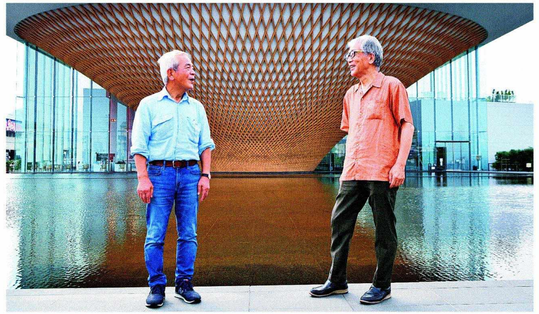
—富士山などのように描かれてきたか。

青柳　今まで培ってきた歴史時代からの物語、あこがれとして対象をちゃんと文学や芸術作品いうのに表現している。いろいろ、「富士」という言葉が富士山の強み。例えば、フランスのブルゴーニュの醸造家と話していて、フランスのワインよりもイメリカ、チリ、南アフリカのほうがおしいしいやないかと。でも余談ですが、ブルゴーニュのワインには物語があるんだ。これが自分たちの強みなんだと。値段からするとフランスワインのほうが高いわけですね。

同じように、どれだけ人々が注目し、称賛しているか、そういう蓄積がね、一つの存在、自然物を大きくしていくと思うんですよ。加藤清正が慶長の役で朝鮮に行った時に富士山が見えるというんで、絵になっている。日本人にとっては典型的な、いろんなストーリーの構み重ねで、日本を象徴する対象なんだということがいろいろあるんです。でも余談ですが、ブルゴーニュのワインには物語があるんだ。これが自分たちの強みなんだと。値段からするとフランスワインのほうが高いわけですね。

—富士山の絵は、どこから見てもいいけど、北斎なんか見たものでもない屏風、その前描いていて、こっちは人間の年に北斎が三十六景を出している。隅田川の遠つ「雅」と「俗」だが、2人が同じ時期にいろんな自然のシチュエーションで描き出している。より物語を排斥して、造形的に語ろうとするんだけど、結局、それを注目するんだったら物語があるからこそ、自然を描く、萩原の富士山に、興味を持ったんじゃないか。ちょっとパラドックスなところがある。そんな作品がある。

これから僕は富士山の写真を集めていきたいと思う。一番好きなのは岡田紅陽。正統派で



対談が行われた静岡県富士山世界遺産センター。「逆さ富士」を模したデザインになっている＝静岡県富士宮市

木下 人がつくり出した一面

—富士山との出会いは。

青柳正規館長　すごい記憶に残っている富士山は小学一年生の夏休みの時。母方の親戚の家に泊めてもらった時、この辺（富士宮市）に連れてきてもらったと思います。それで富士山を見たんです。私は東京の世田谷の端っこに住んでいて、家の中からも見えたと思いますが、金魚屋さんですよね、裾野の広さ、とんでもない大きな山だということを感じましたね。大学は山岳部で、2年の時に登って、アイゼンを履いてもきかないんですよ、それほどにとんでもない光だったんです。1月末か2月の初めだったと思うんですけど。おおらかな、大きなものと、とっても危険な山だという、ことが経験としては蓄積していました。

木下直之館長　浜松の家の屋上から見えたんですよ、ものすごい小さいんだんですけど。富士は小さい時から見えるものだった。登ったのは中学の時で、実はそれっきりでもう登っていないんだけど。あとは東京と浜松を行ったり来たりする時にいや応なく見えるわけです。見える日は富士吉から見えないと思う。見える日は富士吉から見える富士というのは感動するくらい大きく見えますよね。だから富士って何度もすり込まれてきたという感じはあるんだけど。

きょう思い出したのは（曽目）漱石の「三四郎」ですよね、「三四郎」の始まりが広いというのがこの辺の三四郎が終着に乗ってこの辺りに来るわけですけど。ここあれこれ考えるんですよ、富士山って、前を行ったり来たりするたびに、やっぱり間がこしらえ、見えたり見えなくなったりする。見えるときは、ものすごくいろいろ考えるんだけどね、この富士山は、おそらくね、好奇心、畏怖の念、信仰心、自然に対する畏敬の念、これが長い間かけて信仰の対象になったのが、時代によって違ってくる。きょう（曽目）の世界遺産センターで）見た映像はナレーションもなく、さまざまな角度から富士をひたすら見る。こうした見方は北斎に代表される富嶽百景、三十六景のような、いろいろな場所から富士を見ることは静岡県立美術館のコレクションでいうと、16世紀のものに富士の八景図がある。一つのものを複数の場所から見ることが作例として始まっている。

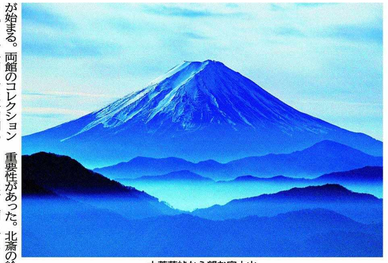
もう一つは、富士見えるこの場所がつながると、三保松原や朝鮮通信使の宿になった浦見寺がセットで描かれる。先ほどの加藤清正のように、朝鮮から見えたことが絵にも残っていること通って、何らかの言葉を残している。富士が日本を代表する山になったのはかなり早い気がします。

—鎌倉幕府ができた時に牧冶葛飾北斎の版画の印刷物がばっまれる。静岡側、山梨側から随分違うイメージの富士が描かれる。

青柳　山梨側で面白いのは、源頼朝が富士の巻狩を行った。歩手前、西行が甲州で侍をしている時、藤原清衡や源頼朝のお父さんも同席としている。本当に長い世代に、京都にしかない世界で日本が動いていた。ところが見ていて楽しい。

鎌倉時代になった時から幕府はやっぱりシンボルだったのではないか。鎌倉に入る一つの役割を果たしていると言える。

木下　その通りだと思う。人の来が増え、東海道から見た富士が広まった。どう描くかは、こちらの段階、東海道から、あるいは海路の海上から。富士信仰が庶民に広まった江戸期半ばになると、北のほうからアプローチ



大菩薩峠から望む富士山

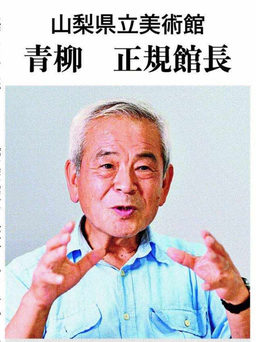
が始まる。両面のコレクションを見ると、静岡の方は静岡側から、「物語」の蓄積で象徴に

葛飾北斎の版画の印刷物がばっまれる。静岡側、山梨側から随分違うイメージの富士が描かれる。

青柳　山梨側で面白いのは、源頼朝が富士の巻狩を行った。歩手前、西行が甲州で侍をしている時、藤原清衡や源頼朝のお父さんも同席としている。本当に長い世代に、京都にしかない世界で日本が動いていた。ところが見ていて楽しい。

鎌倉時代になった時から幕府はやっぱりシンボルだったのではないか。鎌倉に入る一つの役割を果たしていると言える。

木下　その通りだと思う。人の来が増え、東海道から見た富士が広まった。どう描くかは、こちらの段階、東海道から、あるいは海路の海上から。富士信仰が庶民に広まった江戸期半ばになると、北のほうからアプローチ



あおやぎ・まさのり　1944年、中国・大連市生まれ。国立西洋美術館長、国立美術館理事長を歴任。2013年7月から16年4月まで文化庁長官を務めた。美術史学や考古学が専門。17年から山梨県立美術館長。19年から多摩美術大理事長。NPO法人富士山世界遺産国民会議理事長を務めている。

山梨県立美術館 青柳　正規館長

芸術の源 守る責務

—富士山については。

木下　北斎は徹底的に俗な人。三十六景の二景目後が、富士講の信者が富士登っている場面。その版元が富士講の太本だったという説があって、江戸に富士講の信者たちにものすごく売れてたのでは。

北斎だけでなく谷文晁や狩野探幽、歌川広重も描いている。江戸の後期になると印刷物を必要とする社会が出現して、イメージを商品化して手に持つことができた。面白いのは、文晁と北斎は接点があった。ほぼ同じ年。当時の谷文晁の73歳の絵を絵介するが、どこから見てもいいけど、北斎なんか見たものでもない屏風。その前描いていて、こっちは人間の年に北斎が三十六景を出している。隅田川の遠つ「雅」と「俗」だが、2人が同じ時期にいろんな自然のシチュエーションで描き出している。より物語を排斥して、造形的に語ろうとするんだけど、結局、それを注目するんだったら物語があるからこそ、自然を描く、萩原の富士山に、興味を持ったんじゃないか。ちょっとパラドックスなところがある。そんな作品がある。

これから僕は富士山の写真を集めていきたいと思う。一番好きなのは岡田紅陽。正統派で

青柳 山の文化的側面 注目を

—富士山を保全していく責務を両県民は負っている。何をしていけばいいか。

青柳　世界遺産になったことで、富士山はシュリブズム一辺倒ではないということを考えていかなければならない存在になったことはとても長い。人類が価値のあるものとして認めたからら、きちっと守っていく、そういうものを山梨・静岡の県境に持っている。国際的な価値があんだから、みんなで大切にしていく。それ以外の地域にあるものを、しっかりと認めていこうということを広めていきたい。

人類がこれから地球上で活動を続けるための唯一の可能性って、どう多様性を維持していくか。世界遺産が700以上になってフランス価値がよくなるんじゃないかって言うけど、フランス価値は下がってなくて、むしろ、いろんな所でみんなが世界遺産を話題にしてくれる。

その感覚には、どう、我々は人類文化の多様性を維持していくか。そのことが将来の我々の生きる姿勢を言っているのだと思う。大切にしよう富士山を。そのことはほかの世界遺産を大切にすることにつながる。世界の文化の多様性をみんなで守っていく、そういうことではない。それは自然がこしらえたものだって言いつけが。富士山限らなかなかに、明治以降の神仏分離ってことで、廃仏毀釈が、神社なくなっている。これが本当に良えにくくなっている。

木下　唯一の願いは噴火しないで、噴火されると前提が覆ってしまう。

最初の話に戻すと、歌川の「三四郎」の広田先生が、日本には自慢するのは富士山がないって言ってる。そういうことではない。

木下　唯一の願いは噴火しないで、噴火されると前提が覆ってしまう。

最初の話に戻すと、歌川の「三四郎」の広田先生が、日本には自慢するのは富士山がないって言ってる。そういうことではない。

木下　唯一の願いは噴火しないで、噴火されると前提が覆ってしまう。

最初の話に戻すと、歌川の「三四郎」の広田先生が、日本には自慢するのは富士山がないって言ってる。そういうことではない。

木下　唯一の願いは噴火しないで、噴火されると前提が覆ってしまう。

最初の話に戻すと、歌川の「三四郎」の広田先生が、日本には自慢するのは富士山がないって言ってる。そういうことではない。

木下　唯一の願いは噴火しないで、噴火されると前提が覆ってしまう。

最初の話に戻すと、歌川の「三四郎」の広田先生が、日本には自慢するのは富士山がないって言ってる。そういうことではない。

木下　唯一の願いは噴火しないで、噴火されると前提が覆ってしまう。

最初の話に戻すと、歌川の「三四郎」の広田先生が、日本には自慢するのは富士山がないって言ってる。そういうことではない。

木下　唯一の願いは噴火しないで、噴火されると前提が覆ってしまう。

最初の話に戻すと、歌川の「三四郎」の広田先生が、日本には自慢するのは富士山がないって言ってる。そういうことではない。

木下　唯一の願いは噴火しないで、噴火されると前提が覆ってしまう。

最初の話に戻すと、歌川の「三四郎」の広田先生が、日本には自慢するのは富士山がないって言ってる。そういうことではない。

木下　唯一の願いは噴火しないで、噴火されると前提が覆ってしまう。

最初の話に戻すと、歌川の「三四郎」の広田先生が、日本には自慢するのは富士山がないって言ってる。そういうことではない。

木下　唯一の願いは噴火しないで、噴火されると前提が覆ってしまう。

最初の話に戻すと、歌川の「三四郎」の広田先生が、日本には自慢するのは富士山がないって言ってる。そういうことではない。

木下　唯一の願いは噴火しないで、噴火されると前提が覆ってしまう。

最初の話に戻すと、歌川の「三四郎」の広田先生が、日本には自慢するのは富士山がないって言ってる。そういうことではない。

木下　唯一の願いは噴火しないで、噴火されると前提が覆ってしまう。

最初の話に戻すと、歌川の「三四郎」の広田先生が、日本には自慢するのは富士山がないって言ってる。そういうことではない。

木下　唯一の願いは噴火しないで、噴火されると前提が覆ってしまう。

最初の話に戻すと、歌川の「三四郎」の広田先生が、日本には自慢するのは富士山がないって言ってる。そういうことではない。

木下　唯一の願いは噴火しないで、噴火されると前提が覆ってしまう。

最初の話に戻すと、歌川の「三四郎」の広田先生が、日本には自慢するのは富士山がないって言ってる。そういうことではない。

木下　唯一の願いは噴火しないで、噴火されると前提が覆ってしまう。

最初の話に戻すと、歌川の「三四郎」の広田先生が、日本には自慢するのは富士山がないって言ってる。そういうことではない。

木下　唯一の願いは噴火しないで、噴火されると前提が覆ってしまう。

最初の話に戻すと、歌川の「三四郎」の広田先生が、日本には自慢するのは富士山がないって言ってる。そういうことではない。

木下　唯一の願いは噴火しないで、噴火されると前提が覆ってしまう。

最初の話に戻すと、歌川の「三四郎」の広田先生が、日本には自慢

木下 未来へ 付き合い方検証

—富士山は2013年に世界遺産になった。

青柳　なぜベストなのかと思う。日本でこれだけ、みんなが親しまれてそして信仰の山という一つの、日本国民がそう思っているわけですから。もっと早くても良かったのかなと思います。

木下　三保松原がずっという動きもありましたよね。文化遺産としなら三保松原を外すべきだと思いますが、それならもっと入れるべきところもあったのではないかと思います。

—富士山をどういう存在として見ていくか。

木下　富士山は自然がつくるあげたものだというのは間違いないけれど、古くから語られ、歌に詠まれ、描かれてきたものとしては、完全に人間がつくりあげたところがある。そういう意味での文化遺産の登録はなるべくしてなったと思います。それから適宜的なイメージとして世界及びていて、綺麗の壁に富士山が描かれている。浅草だと秋葉原に大塚の富士を作って、人造の富士がいっぱいつくっている。富士の文化的存在ってそれはほかとは比べものにならないくらい大きいと思います。

紙面・記事・写真・イラスト等の無断掲載・転用はお断りします。Copyright 山梨日日新聞社